

2011年度

科目名	衛生薬学演習B				
担当教員	谷 佳津治、見坂 武彦				
配当	薬学6			コード	52066
開期	通年	講時	金曜日2限	単位数	2
授業テーマ	衛生薬学領域の知識を総括的に学ぶ。				
目的と概要	ヒトの健康を保証するためには、ヒトを取り巻く有機・無機の化学物質や食品がもたらす利益と危害および種々の環境因子がヒトに与える影響を、人体および生態系の機能と関連付けて理解しなければならない。本科目では、それまでの講義、実習、演習を通じて学習した薬学領域で必要とされる化学物質の生体・生態への影響、栄養と健康および疾病とその予防に関する知識を、演習形式による反復学習を通じて復習するとともに、その理解を深める。本演習を通じて、薬剤師・薬学研究者として国民の健康増進に寄与するうえで必要とされる衛生薬学に関する基礎・応用力を確実なものとする。				
成績評価法	試験と平常点によって評価する。				
テキスト					
参考書					
履修に当たっての注意・助言/準備学習	予習をして講義や演習に臨むこと。 補助教員: 田中 慶一、野口 民夫、寺田 知行、関 庚善、西中 徹、田中 高志				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標 (SBO)	コア対応番号	学習領域
1	講義・演習	細胞Ⅰ (担当: 谷)	細胞の構造を説明できる。		
			真核生物および原核生物における構造の違いについて説明できる。		
2	講義・演習	細胞Ⅱ (担当: 谷)	細胞の機能を説明できる。		
			真核生物および原核生物における機能の違いについて説明できる。		
3	講義・演習	生体成分Ⅰ (担当: 谷)	生体成分の構造を説明できる。		
4	講義・演習	生体成分Ⅱ (担当: 谷)	生体成分の機能を説明できる。		
5	講義・演習	機能調節Ⅰ (担当: 見坂)	生体エネルギーについて説明できる。		
6	講義・演習	機能調節 (担当: 見坂)	生理活性物質について説明できる。		
			シグナル分子について説明できる。		
7	講義・演習	化学物質: 代謝 (担当: 谷)	化学物質の代謝について説明できる。		
8	講義・演習	化学物質: 毒性 (担当: 谷)	化学物質の毒性について説明できる。		
9	講義・演習	化学物質: 発がん (担当: 谷)	化学物質による発がんについて説明できる。		
10	講義・演習	化学物質: 中毒 (担当: 谷)	化学物質による中毒について説明できる。		
			化学物質による中毒に対する処置について説明できる。		
11	講義・演習	化学物質: 動態 (担当: 見坂)	化学物質の環境内動態について説明できる。		
			化学物質の廃棄について説明できる。		
			環境基準について説明できる。		
12	講義・演習	化学物質: 生態影響 (担当: 見坂)	化学物質の生態への影響について説明できる。		
			生物濃縮について説明できる。		
13	講義・演習	環境微生物 (担当: 見坂)	環境中における微生物の動態について説明できる。		
14	講義・演習	バイオレメディエーション (担当: 見坂)	生物による化学物質の変換について説明できる。		
			化学物質の環境内動態について説明できる。		
15	講義・演習	まとめ (担当: 谷、見坂)	生体と化学物質の関係について説明できる。		
			生態と化学物質の関係について説明できる。		

16	講義・演習	食品:栄養素(担当:谷)	栄養素について説明できる。		
			栄養素の代謝について説明できる。		
17	講義・演習	食品:摂取基準(担当:谷)	食事摂取基準について説明できる。		
			栄養摂取の現状および問題点について説明できる。		
18	講義・演習	食品:品質(担当:谷)	腐敗・変敗について説明できる。		
19	講義・演習	食品:保存(担当:谷)	食品の保存法について説明できる。		
20	講義・演習	食中毒:微生物(担当:見坂)	微生物による食中毒について説明できる。		
21	講義・演習	食中毒:化学物質・自然毒(担当:見坂)	化学物質による食中毒について説明できる。		
			自然毒による食中毒について説明できる。		
22	講義・演習	感染症(担当:谷)	おもな感染症について説明できる。		
23	講義・演習	感染症の予防(担当:谷)	おもな感染症の予防法について説明できる。		
			感染症法について説明できる。		
24	講義・演習	生態系(担当:見坂)	生態系の構成について説明できる。		
			物質循環について説明できる。		
			地球規模での環境問題について説明できる。		
25	講義・演習	水環境(担当:見坂)	上水・下水について説明できる。		
			水系感染症について説明できる。		
			おもな汚染物質について説明できる。		
26	講義・演習	大気環境(担当:見坂)	気圏の構成について説明できる。		
			おもな汚染物質について説明できる。		
27	講義・演習	社会集団と健康(担当:見坂)	健康・疾病に関する現状について説明できる。		
			保健統計について説明できる。		
28	講義・演習	疫学(担当:見坂)	疫学について説明できる。		
29	講義・演習	生活習慣病(担当:見坂)	生活習慣病について説明できる。		
			職業病について説明できる。		
30	演習	まとめ(担当:谷、見坂)	薬剤師として必要な衛生薬学に関する知識を修得している。		
授業方法					
一般目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
				配布資料	90(分)×30回